

経営比較分析表

佐賀県 唐津市

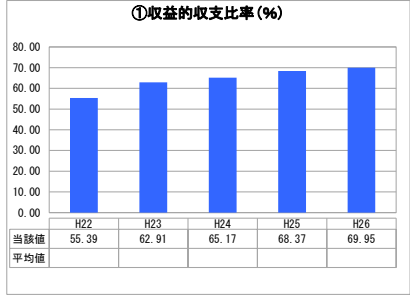
業務名	業種名	事業名	類似団体区分
法非適用	下水道事業	公共下水道	Bd1
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)
-	該当数値なし	57.54	86.32

1か月20m³当たり家庭料金(円) 2,770

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
127,536	487.54	261.59
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
72,974	16.97	4,300.18

グラフ凡例	
■	当該団体値(当該値)
—	類似団体平均値(平均値)
【	平成26年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



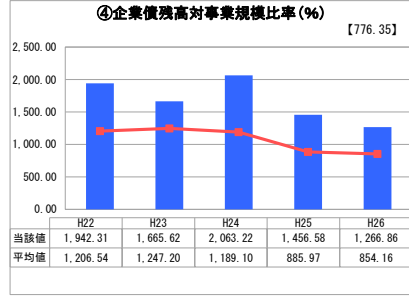
「単年度の収支」



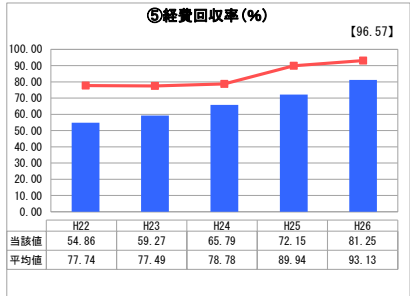
「累積欠損」



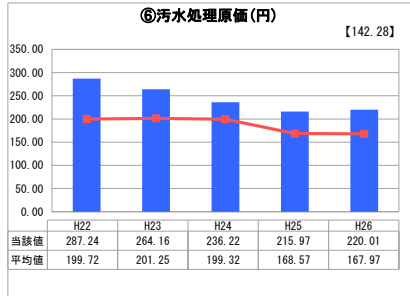
「支払能力」



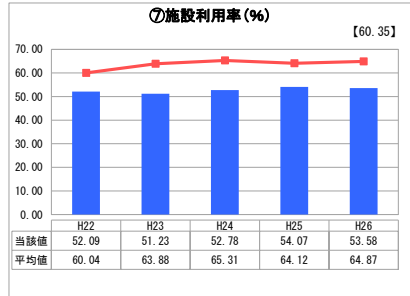
「債務残高」



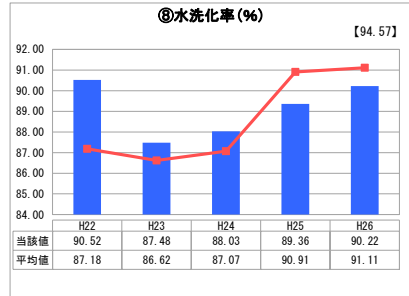
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」



「施設の効率性」

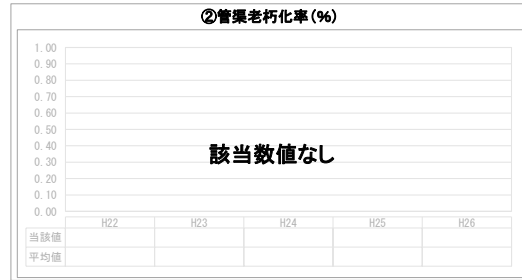


「使用料対象の捕捉」

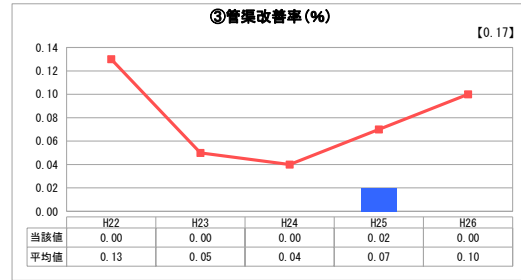
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管渠の経年化の状況」



「管渠の更新投資・老朽化対策の実施状況」

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

収益的収支比率については、100%を達成しておらず、恒常的に単年度収支が赤字となっている。企業債残高対事業規模比率については、平均値よりも高い。これは、下水道の普及を推進するため、供用開始当初から下水道使用料を低廉に抑えてきたこと、水洗化率が思うように伸びないことによる。経費回収率については、100%以上であることが望ましいが、同様の理由により達成できていない。汚水処理原価については、平均値より高く、施設利用率については、平均値より低い状況にある。これは、今後拡大する整備地区からの流入を想定した処理場等の施設を先に整備しているためである。今後、新たに整備を行い供用を開始する地区の接続により改善が期待できる。

2. 老朽化の状況について

現在、管渠の耐用年数50年に対し、昭和58年の供用開始から30年程度が経過しているが、耐用年数を超えた管渠はないため、管渠更新等は進んでいない。今後は、長寿命化計画を策定し、施設の老朽化対策を計画的に進めることとしている。

全体総括

経営の健全性等を確保するためには、下水道使用料の見直し等による経費回収率の向上が必要である。これまで下水道使用料については、経費回収率の向上と使用者の適正な負担を踏まえて、概ね5年ごとに改正を行っているものの、新料金の抜本的な見直しにより市民負担の激増を避けるため大規模な改正は控えてきた経緯がある。今後は、中期財政計画を立て、下水道使用料の必要な見直しを行い、経費回収率の向上を図る。汚水処理原価、施設利用率については、今後拡大する整備地区からの流入が期待できるため改善するものと思える。施設の老朽化対策については、供用開始から30年程度が経過しているため、今後は長寿命化計画を策定し、計画的に進めることとしている。

※ 法適用企業と類似団体区分が同じため、収益的収支比率の類似団体平均等を表示していません。
 ※ 平成22年度から平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、企業債残高対事業規模比率及び管渠改善率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。